若手の俊英が奏でる鮮烈なモーツァルト!!

指揮 米津俊広
東京音楽大学指揮科講師

ピアノ 稲干あかり

鳥取県オーケストラ連盟演奏会 鳥取公演 2021

管弦楽 鳥取県オーケストラ連盟

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466
ドヴォルザーク／交響曲第8番ト長調op.88

エネルギア文化・スポーツ財団助成事業
（申請中）

2021年10月17日（日）

とりぎん文化会館 梨花ホール
14:00開演（13:30開場）

全自由席：一般1,500円（当日2,000円）　**高校生以下500円**（当日1,000円）

未就学児の入場はご遠慮ください。

主催：鳥取県オーケストラ連盟
共催：鳥取県文化団体連合会、鳥取市交響楽団、倉吉室内合奏団、
米子管弦楽団、鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団
後援：鳥取県、朝日新聞鳥取総局、山陰中央新報社、産経新聞鳥取支局、新日本海新聞社、
中国新聞鳥取支局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、TSK山陰中央テレビ、
BSS山陰放送、日本海テレビ、いなばぴょんぴょんネット、日本海ケーブルネットワーク

プレイガイド　とりぎん文化会館、鳥取市民会館、
鳥取市文化センター、アコヤ楽器店、トスク本店、
鳥取大丸、今井書店（吉成店、湖山店）、倉吉未来中心

お問い合せ　鳥取県オーケストラ連盟事務局長　井上拓也
電話090-4807-1339　takuinou@gmail.com

本公演は、新型コロナウィルス感染症防止対策を講じて実施します。

○検温、マスクの着用、チケットの半券へのお名前・電話番号の記入にご協力をお願いします。
○感染拡大状況により、公演の延期、中止、または使用座席を制限する場合がございます。

INTERVIEW
インタビュー

ピアニスト 稲干あかりさんに演奏への意気込みを聞きました。

Q1、モーツァルト／ピアノ協奏曲20番は大好きな曲だそうですね。

小さい頃からモーツァルトの短調の曲が好きでした。モーツァルトの、天から降ってきたような澄み切った明るい音楽というイメージとは異なり、悲痛な中に美しさがあったり、時に激しさも混ざったりしているところが魅力的だと思います。

どの楽章も好きですが、第三楽章のオーケストラとピアノの掛け合いの部分は協奏曲ならではの素敵な部分だと思います。また、今回は第一楽章と第三楽章でベートーヴェンのカデンツァを弾かせていただきますが、時折ベートーヴェンらしい重厚感やドラマチックさを感じられるのが面白い部分だと感じています。

Q2、昨年、この曲を岡山フィルハーモニック管弦楽団と演奏されたそうですね。

「I am a solist」という岡山シンフォニーホール主催の若手の育成を目的としたコンサートがあって、オーディションに合格して出演しました。1楽章だけだったのですがとても貴重な経験となりました。

Q3、本番ではどんな演奏をしたいですか？

この曲の持つ激しい感情や、一方で繊細な美しさを表現できるよう努力したいです。

Q4、好きな作曲家・作品は？演奏するうえで大切にしていることは？

モーツァルトではK・310のピアノソナタが好きです。ドビュッシーの『映像』『版画』などフランスの作曲家も大好きです。演奏する時は、その曲が生まれた時代や、作曲家のことを深く知ることを心がけています。

ピアニスト

鳥取市出身。5歳からピアノを始める。鳥取市立東中学校、鳥取東高等学校を経て、大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コースピアノ科卒業。国際スズキメソード音楽院ピアノ科卒業。在学中に、幼稚園や学校、福祉施設などで訪問コンサートや演奏会を行う。2020年に岡山フィルハーモニック管弦楽団と共演。現在、ピアノ教室で後進の指導にあたりながら演奏活動を行う。これまでに井上恭子、深沢亮子、佐野まり子、芦田田鶴子の各師に師事。

指　揮
米津俊広

1972年愛知県生まれ。東京音楽大学在学中より指揮活動を開始。日本各地のオーケストラ、オペラ等の客演を重ね、2006年、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会「モーツァルトプログラム」を指揮してデビュー。2008年、第28回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール（ヴェネツィア）の指揮部門にて、最高位並びにブルーノ・ワルター賞を受賞。2009年、イタリア、トリエステで行われた、「第1回ヴィクトル・デ・サバタ国際指揮者コンクール」にてファイナリスト3名に選ばれた。

現在東京音楽大学講師。平成19年度、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。

演　奏
鳥取県オーケストラ連盟

1995年、鳥取県内のオーケストラ文化の発展を目的に発足。県下のアマチュアオーケストラ4団体（鳥取市交響楽団、米子管弦楽団、倉吉室内合奏団、鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団）が加盟し、東部、中部、西部の順に年1回演奏会を開催している。

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲

ドイツ・ロマン派オペラの巨人ワーグナーの円熟期の大作。前奏曲は劇中の動機を用いて構成されたドラマチックな音楽である。全合奏による「マイスタージンガーの動機」で堂々と始まり、「愛の動機」「行進の動機」などの様々なメロディが交錯しながら高揚し華やかに展開していく。

モーツァルト／ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466

「短調のモーツァルト」の中でも最も有名で愛されている作品の一つ。ウィーンでの予約演奏会のために書かれた。多忙なモーツァルトはこの作品を前日にようやく完成させ、終楽章を通して弾いてみる余裕さえなかったが、演奏会は大成功だったという。当時のピアノ協奏曲が華やかで社交的なものだったことを考えれば、悲しみ、怒り、嘆きといった感情を剥き出しのまま表現したこの作品に当時の聴衆は大いにとまどったのではないかと思われる。曲は第1，3楽章が短調で書かれ、暗く痛切な曲想で胸に迫る。第2楽章は美しい旋律で知られ、モーツァルトを描いた映画『アマデウス』の エンディングテーマに使われた。

ドヴォルザーク／交響曲第8番ト長調op.88

チェコの作曲家、ドヴォルザークは古典作品やブラームスに強い影響を受け、しっかりした構成と美しく豊かなメロディーの魅力が特徴である。ドヴォルザークは1880年代後半にプラハの近郊のヴィソカーに別荘を持ち作曲活動も行うこととなったが、その自然に囲まれた生活でのインスピレーションから、1889年ドボルザーク48歳の時生まれたのがこの交響曲である。曲中の旋律はどれも親しみがあり、ボヘミアの自然を心から讃えるドヴォルザークの優しい思いが結実した傑作交響曲として、交響曲第9番「新世界より」と並び親しまれている。